

# Tokai Fubokon Letter

## 高フェスインタビュー

### 一億円募金について

オータムフェスの会場に行く  
と必ず見かける、高フェスの生  
徒たちが呼びかける一億円募金活動。どんな趣旨で  
行っているのかを含めて、募金活動が大好きだという  
青木君にインタビューを行いました。



### かずま 青木政磨君(高1)

#### 高フェスに入ったきっかけ

3月31日の夜、友人から「明日学校早く来られないか？」との連絡を受け、次の日何も知らずに行ったら、いつの間にか群舞を教えられて、1~2時間練習。その直後、中学の入学式終了後にグラウンド横を通る新入生の前で(勧誘のために)群舞を踊った。部活は2年生でやめて、習い事の方を頑張っていたが、この群舞がきっかけで高フェスに入った。

#### 入ってみて?

女の子と接したことがなかったから、すごく新鮮な空間だった。元々ボランティアに興味があって、高フェスでは募金活動や他の活動をやっていることを聞いて、めちゃくちゃ楽しそうじゃん、って思った。そして実際にやってみて、本当に楽しかった。僕は人との繋がりを結構大事にしたタイプ。高フェスでは人の気持ちがとてもあったかくて、他人のために行動できる人が集まっていて、とても居心地が良かった。ずっとここにいたいな、って思えるほど楽しませてもらっている。本来の自分、素を出せる場所ができた。



#### 募金活動を初めてした時は?

初めての募金活動は、高フェスに入って次の日の4月2日。新感覚。募金ってお金を集めるものと思っていただけ、実際は人の温かさ優しさを集め、それを感じ

られる活動。だから募金も好きになっちゃいました。周りの人(生徒)が頑張ってる声をかけているのを見ると、自分も頑張らなくちゃと思って、僕は初めての時も声をかけることに抵抗をあまり感じなかった。

#### 街頭に立ってみてどんなことを感じる?

募金してもらえないことにはそれほど気に留めないけど、今同時に行っている署名活動では1対1で話しかけるため、振り向いてもらえないと少し悲しい時もある。でも、話しかけることで私学に通う高校生がこんなに大変な思いをしているという現実を少しでも知ってもらえることができた、と考えることができるし、それがその地域の人、たまたま通りがかった人、みんなにどんどん広がっていったら良いと思うので、やりがいはある。(でも、やっぱり凹む時もあります。)

#### 一億円募金活動とは

経済的に苦しんでいる中高生に年間12万円を無利子の奨学金として貸し出している制度。1999年に始まり、多くの家庭に利用してもらっている。現在は特にコロナの影響もあり、困っている家庭を経済的に支援するためにこの募金活動はずっと続いている。集めたお金は愛知私学奨学資金財団に送られて、そこから貸し出されている。



募金してくださった方が立ち去った後も、深々とお礼をしていました

#### 高フェスにおける東海生のリーダーシップ

高フェスの中にも生徒会のような役(三役)があるが、東海は最大人数を出しているし、名北地域の地域次長も東海から。僕も今は三役で、とてもやりがいを感じている。サマセミでも東海生が率先して講座を出し、高フェス関連講座のリーダーとなっていることから、やはり東海生はリーダーシップがあるように思う。

#### 社会の皆さんに伝えたいこと

夏の勉強会で学んだ事例の中に、神奈川の高校

生の話があって、この話をすると泣けてしまって…。バイトを3つ掛け持ちしている高校生の話。部活だっ  
たいし、勉強もしたい。でも自分がバイトをたくさん  
しないと学校に通えない。休日も10時間近くバイト  
している。学生は将来働くために学ぶのに、自分  
はなんで学ぶために働かなくてはならないのか？  
という言葉聞いて、僕は言いようのない、やり場  
のない怒り、むかつきを覚えた。日本の社会は  
おかしいと思った。

そういう子をなくすために皆さんのご理解・ご協  
力がが必要です。自分は関係ないからとってどう  
か無視しないでほしいです。自分が向き合うべき  
問題だと思って、一緒に行動していただけたら嬉  
しいです。

今までは高校生フェスティバルというのはほぼ  
愛知県の取り組みだったが、今は他県にも広がり  
始めた。愛知から変えていきたいと思う。(終)

### 「一億円募金 作文(幹事会にて)」(一部抜粋)

…思ってる以上に楽しいというか、やりがいを感じ  
られて、募金に恋しちゃいました。…募金箱を持っ  
てると、お金の重みだけじゃなくて人の優しさの重  
みも入っている気がして、募金って寄付金が集まる  
だけじゃなくて、人の優しさも集まってるんだ！  
って感じたのを今でも鮮明に覚えています。特に  
外国人の方が入れてくれたり、入れてくれた時  
に頑張っ  
てねとか言ってくれた時とかは、めっちゃ感動  
して涙腺緩んじやいます。



### 「希望プロジェクト 弁論」(一部省略)

みんなが同じ想いを持って集まった時の力強さが  
分かりますか？僕は高校生フェスに参加するまで  
全く分かりませんでした。…募金活動をしている時  
にある方が、「コロナ禍の影響で仕事を辞めちゃっ  
て、精神的に不安定になっていたけど、君たちの姿  
を見て感動して元気が出た。」と言って下さって、  
涙が出ました。その時に僕の中で群舞を踊る理由  
に変化が始めました。…見てくれた人からは、  
群舞を見ると笑顔になれる、と言ってもらいま  
した。僕は踊っている時の一瞬一瞬の景色をず  
っと忘れな  
いと思います。そして、その時僕の中でなぜ群舞  
を踊るのかの答え



が確信に変わりました。群舞は人を笑顔にし、感  
動させるもの。そして自分たちが向き合ってい  
ない問題に立ち向かうために、一緒に行動をする  
仲間の輪を広げるもの。

僕たちは未来の社会を担っています。確かに今  
は微力です。ですが微力でもたくさん集まれば、  
それは必ず強い力となります。だから僕たちは  
群舞を踊り続けます。これからもずっと。

### まとめ

「いつも群舞を見てくださり、応援していただ  
いて、ありがとうございます。」と、折目正しいお  
辞儀と共に柔らかな声で丁寧な挨拶をしてくれ  
た青木君。長身を活かしたダイナミックかつキレ  
ッキレの群舞をセンターポジションで踊っている  
彼にはいつか話を聞いてみたいと思っていました  
が、以前紺野先生が紹介して下さいって心に残  
っていた一億円募金についての感想文を書いた  
のも青木君だと分かり、ますます興味を持ち  
インタビューをお願いしました。一瞬で好感を抱  
く笑顔に惹きつけられ、これはきっと募金活  
動・群舞で培ったパワーだなあと  
思いつつ、同じ高校生が置かれている環境に  
声を詰まらせながら語る16歳のピュアな感  
性に触れると、私自身も今まで以上に共感し、  
胸に迫るものを感じました。



インタビュー後、高フェス  
担当の笠行先生と

愛知の私学は、長らくの間の先輩方・皆さまの署名  
活動のおかげで世帯所得720万円以下が無償、  
経常費助成も1人あたり34万円ほどの補助があり  
ますが、他都道府県ではここまでのレベルには  
なく、愛知以上に授業料が重くのしかかっ  
ている現状があります。彼の言葉通り、愛知  
の高校生の取り組みが認められて模範として  
広まれば、全国の高校生を助ける一つの  
手立てとなる、と信じてこれからも署名、  
募金を応援していきたいと思  
います。皆さまもご協力のほど、何卒よろしく  
お願いいたします。

\*制服バザーの収益は一億円募金となります。

制服等の寄付もよろしくお願  
いいたします!

(中学は笠行先生、高校は北村先生まで)

## 第2回文化講座

# 介助犬ってご存知ですか？ <12/5>

第2回文化講座 3歳 養育費の補助あり  
**介助犬ってご存知ですか？**  
 2021年12月5日(日)  
 14時～15時  
 会場：日本介助犬協会 総合訓練センター～シンシアの丘～  
 10名 15名 20名 25名 30名 35名 40名 45名 50名 55名 60名 65名 70名 75名 80名 85名 90名 95名 100名

長久手の介助犬訓練施設「シンシアの丘」見学に参加させていただきました。

介助犬？ 盲導犬とは違うの？ と全く無知な私が、ただただワンちゃんが大好きという理由での参加でした。

「シンシアの丘」は、10年前に建てられたとは思えないほど綺麗な施設。本日のデモンストレーション犬のキララちゃん(ゴールデンレトリバー)の愛らしいお出迎えを受け入館すると、何頭ものワンちゃんが生活しているとは感じられない静かで、臭いもない清潔な館内に驚きました。



そして、日本には介助犬訓練施設がここ長久手に1ヶ所しかないこと、日本全国で介助犬とユーザーさんのペアが57組のみ、愛知県内では3組しかいらっしやらないことも驚きでした。

スライドを使って補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)や介助犬施設等の説明を受けた後、キララちゃんのデモンストレーションを実際に見せていただきました。車椅子に乗ったスタッフさんの落とした鍵やコインを拾う、靴と靴下を脱がせるお手伝いをして洗濯かご



に靴下を入れる、冷蔵庫から冷たい飲み物を持ってくる、携帯電話を探して持ってくる…という高度なお仕事でしたが、スタッフさんの言葉を理解し、褒めてもらい嬉しそうにスタッフさんの手と鼻でタッチする姿は、本当に愛らしく「なんてお利口さんの!!」と、抱きしめて頬

**介助犬育成の目的**

なぜ介助「犬」なのか…

【人による介助・機械の場合】  
 できぬことをしてもらおう・やってもらう

【介助犬】  
 自分で行った作業＝「できる」という認識  
 愛情を注ぐ対象ができる  
 気がおなげ！喜びを持った介助をしてくれる！

ずりしたくなりました。

私も家族のお手伝いをした時に、家族の笑顔や「ありがとう」という言葉を聞くとうれしくなりますが、スタッフやボランティアの皆さんに愛情いっぱい育てられた介助



ケージもとても清潔です



館内施設の説明

犬のワンちゃん

は、家族としてお仕事ができることに本当に喜びを感じているのだらうと思いました。大好きなユーザーさん

と、ずっと一緒に生活できる介助犬のワンちゃんは、留守番の多い我が子(愛犬)よりも幸せなのかもしれません。

ユーザーさんは介助犬に助けてもらえばかりではなく、ご飯や排泄物の処理や散歩などワンちゃんのお世話をする必要があります。お互いに助け合う共同生活となり、より一層絆が深くなるのではないのでしょうか。



介助犬希望者の訓練室(障害に合わせて部屋が選べる)

スタッフの方に、補助犬を街で見かけた時はお仕事中ですので



シャンプーは

3~4週に一回

触ったり

声かけをせずに「優しい無視」を、とお願いされました。ワンちゃんが大好きな私は補助犬を見かけると、触りはしないまで

も目を合わせようとしていました。それは人が大好きであろう補助犬にとって、うれしいことだと勘違いしていたからです。勘違いはこわいですね…今後はそっと見守るようにします。

愛情を込めて大切に育てるワンちゃんも、個性などもあり2~3割しか介助犬になることができないそうです。

**介助犬にならない犬たち**

●主アリアチンジ犬(CC犬)  
 何らかの理由で合給式に向いていないと考えられる犬のこと。決してダメな犬ではありません！  
 キャリア(仕事)をチンジ(食べる)するだけで、  
 それぞれの犬がそれぞれの個性を活かして活躍できる道を探します！

介助犬の訓練には、手間も時間もお金もかかるそうで、私でも力になることができる寄付金について「[シンシアの丘](#)」、「[日本介助犬協会](#)」のホームページを見てみました(クリックするとそれぞれHPにとびます)。



介助犬1組の育成費用は240~300万円。ユーザーに無償貸与

としている団体は、他にもたくさんあるとは思いますが、今回は介助犬の存在を知り、豊かな社会を目指す第一歩としての寄付を検討することにします。

そして、たくさんの方に補助犬について理解や支援をしてもらいたいと思いました。介助

ボランティアや活動費の9割を寄付金で運営されている協会ですが、コロナ禍で街頭活動や見学会もなかなかできず、厳しい現状であると知りました。寄付金を必要



入り口にはたくさんの寄付団体の名前が

犬協会のホームページを覗いて見て下さい。尻尾を振りながら楽しそうにお仕事をしている介助犬の動画もあります。

助け合い、心豊かな社会になりますように。



貴重な見学会をご企画いた

だきまして、ありがとうございました。

### 【参加者の感想】

・ 実際に施設見学をすることで、犬達の生き活きた様子を見られてよかった。また、ユーザーとの共同訓練室の見学ができて、体が不自由なときの困りごとを知ることができてよかった。

今後も現地見学できる講座があると楽しいと思う。

・ 息子と一緒に参加させていただきました。今まで補助犬という言葉は聞いたことがありましたが、それぞれの役割で呼び方が異なることは知りませんでした。今回、参加させていただいて理解が深まった

とともに、人のために頑張っているわんちゃんが多くいることで、救われている人も多くいることを知りました。シンシアの丘での訓練がどのようなものかも実際見ることができ、息子共々、大変貴重な経験をさせていただき感謝しております。今後、補助犬を連れて何か困っている方を見かけたら、すぐにサポートできる人間でありたいと思います。素敵なイベントをありがとうございました。

・ 動物が隣にいてくれる事が物理的介助以上に精神的なサポートにつながっていると感じました。まさに、ロボットにはできない、ひょっとしたら人間にもできない、飼い主におけて純な愛情をくれる動物だけができるケアなんじゃないかなあって思いました。



\*[T.F.Letter No.15](#)に、介助犬訓練前の1歳まで預かって育てるボランティア「パピーホーム」について掲載しています。ぜひ合わせてご覧ください。

### 編集後記

一見勇気がいりそうな募金活動も、お金を集めるという目的にとどまらず、そこから感じ取ったことをさまざまな学びとして繋げていく青木君の瑞々しい感性に魅了されました。募金も介助犬育成も、社会的弱者と呼ばれる方々の一助になろうという、温かい気持ちが共通しています。犬の利口さ、可愛さもさることながら、この世に57頭の介助犬を送り出してきた方々の熱意、活動に賛同し協力してきた方々の善意に感じ入り、補助犬への理解と協力が進むことを願わずにはいられません。